

新潟県ブロック講習会にご参加いただいた皆様へ

日本テニス協会 認定S級エリートコーチ
吉田将彦

皆さま、いかがお過ごしでしょうか？

コロナウィルスの影響で、今まで当たり前だった生活（通学、テニスなどなど）が思い通りに進まず、心苦しい毎日をお過ごしのことかとお察しいたします。

こういう状況になって、改めて普段の生活の有難さを感じる次第です。

「今しかない」という気持ちで、何かに常に取り組み生活していたか？自問自答は尽きません。

「今しかない」中東、ヨルダンについて

皆様には中東ヨルダンのテニス事情をお伝えしました。

訪問したのは昨年11月の事で、中東地域での政情悪化を予測し（私の勝手な予測でしたが、少なからず的中しました）その上で、「今しかない」という思いが、この行動に繋がりました。

この行動についてですが、多くの方に聞かれるように「恐怖心」はありました。

（イラク、シリアに隣接し、銃の所持を国が完全に取締まれないといった危険があるため）

しかし、その「恐怖心」以上に皆さんの年齢で異国と異文化に興味を持つきっかけとなった（湾岸戦争、映画アラビアのロレンス）、この地への憧れを消すことができませんでした。



また、10年ほど前ですが、ヨルダンテニス協会が世界中から育成コーチを募集していて、いつかそんな未知の経験を積んでみたいという思いもありました。

この「今しかない」は、常に私の頭の中に存在しています。まさに、この「今も」です。
皆さんの中の、「今しかない」は、どのような瞬間でしょうか？

ご縁とコミュニケーションについて

ここでまた、外国につながる話をします。

私は約10年前に国際テニス連盟（以下ITF）レベル2コーチという試験を受験、そして合格しました。これはナショナルチームレベルのテニスコーチング能力を育成するという趣旨で、ITFの主催で行われるものです。（この試験を受験、合格した日本人は私ただ一人だと、ITFに教えていただきました）

しかし、私が受験が認められるまでには7年という歳月を必要としました。

その理由は「私が日本人である」から（人種差別ではなく、制度上の問題）。

日本人という理由だけで（繰り返すが人種差別ではなく制度上の問題）、何度も国際テニス連盟などから受験を拒否されてきたものの、「質の高いコーチングスキル習得」の為に、この試験に対する想いは募るばかりです。

そんな私に、ついにフィリピンテニス協会が、救いの手を差し伸べてくれるのです。

インド、シンガポール、中国など、多くの国の協会の協力が得られず受験できなかった私が、フィリピンに行ったことも、当時一人も知人がいなかった私が、なぜこの機会を得られたのでしょうか？

思い当たるのは一つだけ。

過去に中国で行われたアジアテニスカンファレンスで、フィリピンテニス協会会長だったMr.Ajay Pathakさんと偶然、朝食バイキングのテーブルが同じで、少しだけ会話をしたことがありました。

この頃の私と言えば、ITFやアジアテニス連盟の関係者の方に、この試験の受験希望を事あるごとに伝えていましたから、自己紹介を交えながらもアジアテニス連盟の理事でもあったMr.Ajay Pathakさんにこの場で何かお願いをしていたのかもしれませんが。

「香港在住で、アジア大会に向けてモンゴル人選手を指導中の日本人テニスコーチ」そんな私の事を、「変わった若者だな」と思いながらも、些細な会話の中で何か興味を持ってくれたのかもしれませんが。

Mr. Ajay Pathakさんとのご縁は、チャンスという扉を開いてくださったばかりでなく、その後のテニスコーチとしての私の人生にとっても大きな影響を与えてくれました。

皆様にも、日々のご縁、出会い、コミュニケーション、これらの大切さを共感していただけると嬉しく思います。



ITF Level 2 Coaches Course : Nov. 21 - Dec. 2, 2009, Subic, Philippines
Standing, from left to right: Mr. Ajay Pathak (ITF), Mr. Julio Villanueva (PHILTA), Mr. Suang Chantra-Urai (Instructor), Trahit Siritbutwang, Col. Salvador Anorada, Ritchie Cunanan, Mr. Suresh Menon (ITF), Aj De Leon, Mr. Mark Joseph (POC), Bobby Armillo, Mr. Benny Lin (Instructor), Pasakorn Sakelsatayatorn, Masahiko Yoshida, Totoy Alina, Mr. Martin Misa. Seated, from left to right: Roland Kraut, Ronnie Anas, Pereme Alina, Van Ruelan, Pop Sabandon, Allan Evangelista, Willie Servillon, Nino Salvador, Andrian Raturandang. Not in photo: Karl Santamaria and Edward Puno.

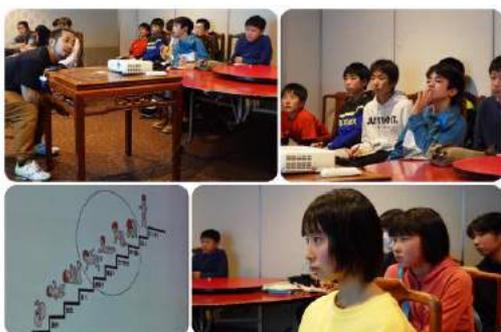
新潟県ジュニアへのメッセージ

JTA コーチブロック派遣新潟県選抜ジュニア冬季合宿フィジカルコーチ：藤田賀史

歯を磨かなければ虫歯になるように、
テニスをする前の準備は怠れば怪我のもとです。

それでも中には、歯を磨かなくても虫歯にならない人もいます。

ストレッチや体のケアを怠っていても怪我しない人もいます。



テニスのスキルが同じレベルの2人の選手がいたとして、1人はテニス以外は頑張らない人、もう1人はテニスはもちろん、あらゆる準備を怠らない人。

どちらの選手になりたいですか？

準備できる選手になるには
毎日、自分の体のコンディションを考えて
毎日、最高の状態で練習に行くことが必要です。

新型コロナウイルスで不安な毎日が
続きますが、体に気をつけて
頑張ってください。

また会いましょう。

